

目的 わが国の人口の高齢化が世界一早い速度で進み、加齢に伴う老年期の色彩感情、生活行動について未知な分野が多く、これらは重要な高齢者問題である。そこで、当学会色彩・意匠学部会では昭和62年度より全国的に表題の実態調査を実施した。

まず、成人のライフ・ステージにおける色彩の好み、嫌われる色彩とは何か。次にどのような変化が起きるか。好きな色彩はどんな意味をもつかを明らかにして、老年期のころよい生活設計、ライフ・スタイルの選定に必要ないくつかの要因を得たので報告する。

方法 1) 対象 2008名(1922年9月以前生まれ) フェイス・シート

性別		老年前期 後期		職業		未既婚		世帯			住居形態	
男	女	65~74	75歳以上	有	無	未	既	1人	夫婦	他と同居	一戸建	集合
647	1361	1319	689	325	1683	81	1927	454	534	1020	1632	376

2) 調査時期 1987年9月1~30日、10~15時、3) 手続 質問紙法、面接調査、JIS色票80色、形容詞20尺度、5段階評定、4) 主成分分析 因子の解釈、意味づけ。

結果 好きな色彩のイメージ・プロフィールは、好きな、ころよいから渋い、流行のに至る。各形容詞間の相関は中程度かやや低い。因子負荷量は第1因子“楽しい、清潔な、新しい”第2因子“渋い、地味な”第3因子“ころよい、上品な”第4因子“好きな”累積寄与率55.2%。1軸…活力、2軸…落着き、3軸…やすらぎ、4軸…自己主張因子、と考えられる。したがって老年期の色彩感情は性別、個人差はあるが、全般に感性豊かで生き生きとして、ころよいイメージをもつ色彩が好まれ、求めていることがわかった。